

COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.2

1. 調査概要

この調査の目的は「琉球大学の構成員（学生、教員、職員）が新型コロナウイルスに関する現状をどのように捉えているのか」を把握することである。調査主体は、琉球大学・政策科学講座／国際関係論講座（以下、政国）である。われわれ政国スタッフは、公共政策に関する教育研究活動を実践する立場から、この調査が必要であると判断し、実施した。本レポートは「新型コロナウイルスの感染拡大を抑止しながら、琉球大学の教育研究活動を維持する方策を検討する」ための基礎資料として公表するものである。

まず、ご協力いただいた琉球大学の学生、教員、職員の皆様に心から御礼申し上げたい。調査方法はオンライン調査、調査期間は2020年3月31日から4月6日までである。回答者は1,561名である（このほか調査協力に同意しなかった方が6名）。2019年5月1日時点で琉球大学の学生、教員、職員の合計は11,416人であり（2019琉球大学概要データ版）、概算で8人に1人が回答した計算になる。

調査フォームはGoogleフォームで作成した。そのため、同一の回答者が複数回答した可能性を排除できない。しかし、調査フォーム上では1人1回だけ回答するよう明記した。質問項目は「所属」「年代」「授業開始時期」「授業形態」「不安に感じていること」（以上、共通）、「職員間の距離」「在宅勤務」「電子決裁」（以上、職員限定）とした。調査フォームのレイアウトは附録を参照されたい。

協力依頼は政国スタッフがメール、SNS、口頭などで実施した。その結果、教員の回答者に人文社会学部が多いなど回答者に偏りが生じた。部局ごとに実験や実習の有無など授業形態に違いがあるため、回答者の偏りは結果の偏りをうみだしている可能性がある。そのため本レポートでは区間推定や統計的検定はしない。琉球大学を代表するデータというよりも、1,561のケース・スタディの集積として捉えていただきたい。ただし後述するように、学生の回答者は全学の構成比率に近いものとなった。

協力依頼時には、学内の構成員に限り自由に拡散して構わないことを伝えた。結果としてSNS上でも一定の拡散がなされた。たとえばTwitterでは本アンケートに関するツイート6つがなされた。そのうち最初の投稿に関しては109件のリツイートがなされた。こうした依頼方法をとったため、本調査の回答者（特に学生）はインターネットやSNSの利用頻度が多い層と考えられる。もっとも、インターネットやSNSの利用頻度と、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に関する認識や行動との間に何らかの体系的な相関があるのか、現時点では不明である。

2. 調査結果

回答者の所属と年代

回答者総数は 1,561 名である。回答者の所属と年代を表 1 に示した。学生 93.0% (1,452 名)、教員 5.1% (80 名)、職員 1.9% (29 名)であり、9 割以上を学生が占める。参考情報として、2019 年 5 月 1 日時点の琉球大学構成員数 (2019 琉球大学概要データ版) は、学部生 62.9% (7,184 人)、大学院生 8.4% (957 人)、教員 7.7% (874 人)、職員 21.0% (2,401 人)である。本調査の回答者では学生が非常に多く、教員と職員が少ない点に留意が必要である。学生が多いことを反映して、回答者の年代は 20 代 66.2% と 10 代 26.3%があわせて 9 割以上を占める。それ以上の年代では 40 代が若干多い。なお、回答者の中には 2019 年 3 月卒業者が若干名含まれている (自由回答で確認)。

学部別にみると、学生で回答者の割合が高いのは工学部、国際地域創造学部、人文社会学部、法文学部である。実際の学生比率 (2019 琉球大学概要データ版) に比べて、回答者比率が低いのは、医学部 (6.1%ポイント)、理学部 (4.9%ポイント)、工学部 (3.7%ポイント) であり、高いのは人文社会学部、法文学部、国際地域創造学部、観光産業科学部 (改組のため合計: 10.1%ポイント)、農学部 (1.9%ポイント) である。教員では人文社会学部と国際地域創造学部、職員では大学本部の回答者が多い。

表 1 回答者の所属と年代

全体に占める%		10代	20代	30代	40代	50代	60代~	合計	
								%	人
学生 1,452人	人文社会学部	3.6	8.6	0.1				12.4	193
	国際地域創造学部	5.6	9.4		0.1			15.1	236
	法文学部	0.3	11.0	0.1				11.4	178
	観光産業科学部		3.2					3.2	50
	教育学部	2.8	6.0					8.7	136
	理学部	2.4	5.6					8.0	125
	医学部	2.0	3.5					5.5	86
	工学部	5.8	11.1					16.9	264
	農学部	3.8	5.6					9.5	148
	大学院生ほか	0.1	1.9	0.1		0.1	0.1	2.3	36
教員 80人	人文社会学部			0.3	0.7	0.5	0.3	1.8	28
	国際地域創造学部			0.3	0.5	0.4	0.1	1.3	20
	そのほか			0.1	0.9	0.8	0.3	2.0	32
職員 29人	大学本部		0.1	0.2	0.4	0.1		0.7	11
	そのほか		0.1	0.3	0.6	0.1		1.2	18
合計		26.3	66.2	1.6	3.2	1.9	0.8	100.0	1,561

出所) COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.2: 琉大政国

授業開始の時期：Q1-2, 2-2, 3-2

他大学では授業開始の延期を表明する大学が多い。この調査では「2020年度の授業は、いつから始めるのがよいと思いますか?」と質問した。表2に所属ごとの割合を示している。網掛けは全体よりも5ポイント以上高く、斜体は低いことを示す。

全体で見ると、4割近くが「5月前半」を選び、それに「4月後半」と「5月後半以降」が続き、「4月前半」は少ない。所属別にみると、学生に比べて教員は「5月前半」や「5月後半以降」を選んだ割合が高い。それに対して「4月前半」を選んだ割合が高いのが、教育学部生、医学部生、大学院生である。教員免許や医師免許の取得スケジュール、学位論文の執筆スケジュール、遠隔授業や開始時期に関する学部の方針が影響していると推察される。

表2 望ましい授業開始時期

各カテゴリに占める%	4月		5月		合計 人
	前半	後半	前半	後半～	
学生 人文社会学部	14.0	30.1	36.3	19.7	193
国際地域創造学部	11.4	22.0	43.2	23.3	236
法文学部	10.7	23.0	47.2	19.1	178
観光産業科学部	10.0	22.0	44.0	24.0	50
教育学部	23.5	26.5	32.4	17.6	136
理学部	12.8	21.6	42.4	23.2	125
医学部	25.6	23.3	30.2	20.9	86
工学部	18.6	24.6	34.5	22.3	264
農学部	20.3	21.6	37.8	20.3	148
大学院生ほか	27.8	27.8	25.0	19.4	36
教員 人文社会学部	10.7	14.3	50.0	25.0	28
国際地域創造学部	10.0	20.0	40.0	30.0	20
そのほか	9.4	21.9	46.9	21.9	32
職員 大学本部	18.2	18.2	45.5	18.2	11
そのほか	5.6	33.3	33.3	27.8	18
全体	15.9	24.0	38.8	21.3	1,561

網掛け：全体より5%ポイント以上高い

斜体：全体より5%ポイント以上低い

授業形態：Q1-3, 2-3, 1-4, 2-4

感染症対策として遠隔授業の活用が進んでいる。そこで、学生には授業形態に関する希望を質問し、教員には授業形態の予定を質問した。表3には4月前半に始める場合、表4には5月後半に始める割合を、それぞれ所属ごとに示している。網掛けは全体よりも5ポイント以上高く、斜体は低いことを示す。

まず4月前半の場合を示した表3をみると、遠隔授業を希望／予定する回答者が多い。全体では7割以上が遠隔授業を選択した。特に多いのは、医学部、理学部、国際地域創造学部の学生である。学生に比べると教員は教室での授業を選びやすく、特に人文社会学部ではほぼ半分の教員が教室での授業を予定すると回答した。

つぎに5月後半の場合を示した表4をみると、表3に比べて教室授業を希望／予定する回答者が多い。全体では6割以上が教室授業を選択した。特に多いのは、人文社会学部、国際地域創造学部、法文学部、観光産業科学部の学生である。それに対して、理学部や医学部の学生は全体に比べて遠隔授業を希望する割合が高い。

表3 授業形態：4月前半から

各カテゴリに占める%	教室		遠隔		合計 人
	いままでどおり	対策をとって	できるだけ	すべて	
学生 人文社会学部	2.1	22.8	45.6	29.5	193
国際地域創造学部	1.3	14.8	36.4	47.5	236
法文学部	0.6	16.3	44.9	38.2	178
観光産業科学部		14.0	44.0	42.0	50
教育学部	3.7	26.5	39.0	30.9	136
理学部	4.0	18.4	31.2	46.4	125
医学部	1.2	7.0	34.9	57.0	86
工学部	4.5	23.1	37.1	35.2	264
農学部	7.4	16.9	41.2	34.5	148
大学院生ほか		25.0	41.7	33.3	36
教員 人文社会学部	3.6	42.9	28.6	21.4	28
国際地域創造学部		35.0	45.0	20.0	20
そのほか	3.1	34.4	37.5	21.9	32
全体	2.9	19.9	39.2	37.9	1,532

網掛け：全体より5%ポイント以上高い

斜体：全体より5%ポイント以上低い

表4 授業形態：5月後半から

各カテゴリに占める%	教室		遠隔		合計 人
	いままでどおり	対策をとって	できるだけ	すべて	
学生					
人文社会学部	15.0	48.7	29.5	6.7	193
国際地域創造学部	6.8	48.7	28.0	16.5	236
法文学部	5.6	56.2	27.0	11.2	178
観光産業科学部	2.0	64.0	22.0	12.0	50
教育学部	12.5	50.7	28.7	8.1	136
理学部	12.0	37.6	32.8	17.6	125
医学部	7.0	43.0	37.2	12.8	86
工学部	11.7	47.0	27.7	13.6	264
農学部	13.5	47.3	27.7	11.5	148
大学院生ほか	8.3	47.2	30.6	13.9	36
教員					
人文社会学部	3.6	57.1	21.4	14.3	28
国際地域創造学部	5.0	65.0	25.0	5.0	20
そのほか	3.1	56.3	15.6	25.0	32
全体	9.9	49.1	28.4	12.6	1,532

網掛け：全体より5%ポイント以上高い

斜体：全体より5%ポイント以上低い

出所) COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.2: 琉大政国

不安に感じていること、困っていること：Q1-5, 2-5, 3-6, 1-6, 2-6, 3-7
 調査では、不安に感じていることを選択肢として列挙し、複数選択で回答してもらった。あわせて、不安に感じていること、困っていること、大学等に対する提案を自由に記述してもらった。それらのうち、不安に感じている／困っていることを示したのが表5と表6である。

表5は、こちらで用意した選択肢に関する結果である。全体でみると、6割以上が、「自分が感染」した／すること、「自分が感染源」となった／なることを不安に感じている。自分が感染しないだけでなく、他人に感染させないようにすることを心配している。次いで約5割が、授業時に座席間隔を空けることのできるだけの「教室確保」に対して不安を感じている。特に教員や職員で割合が高い。これらに比べると割合は低い、「収入減少」や「遠隔授業」に対する不安を示した回答者もいる。特に「遠隔授業」は、教員（人文社会学部、国際地域創造学部）と職員が不安に感じている。職員に対しては「在宅勤務」も設問したが、大学本部で不安に感じている割合が高い。職員の中では、大学本部のほうが他部局に比べて不安を抱えている職員が多い。

表5 不安に感じている／困っていること

各カテゴリに占める%	自分が感染	自分が感染源	収入減少	遠隔授業	教室確保	在宅勤務	合計人
学生							
人文社会学部	67.4	60.6	28.0	16.6	53.9		193
国際地域創造学部	65.7	57.2	24.2	15.7	44.1		236
法文学部	72.5	73.6	32.0	9.0	51.1		178
観光産業科学部	70.0	68.0	32.0	10.0	44.0		50
教育学部	73.5	64.0	33.1	21.3	47.8		136
理学部	59.2	56.8	19.2	16.0	46.4		125
医学部	61.6	60.5	17.4	12.8	41.9		86
工学部	61.0	51.5	28.8	18.2	43.2		264
農学部	62.2	57.4	24.3	18.2	49.3		148
大学院生ほか	55.6	55.6	25.0	22.2	30.6		36
教員							
人文社会学部	75.0	78.6	14.3	60.7	85.7		28
国際地域創造学部	75.0	75.0	20.0	60.0	85.0		20
そのほか	53.1	56.3	12.5	25.0	53.1		32
職員							
大学本部	81.8	81.8	18.2	45.5	63.6	72.7	11
そのほか	50.0	55.6	27.8	55.6	61.1	55.6	18
全体	65.3	60.3	26.1	18.3	48.3	64.3	1,561

網掛け：全体より5%ポイント以上高い

斜体：全体より5%ポイント以上低い

「在宅勤務」は職員数に占める%

出所) COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.2: 琉大政国

表6には、自由記述の内容を分類してカウントした数を示している。もっとも多かったのは、海外や県外から沖縄への移動に伴うウイルス移入に関する記述である。学生／教員／職員を問わず、また所属先を問わず、言及があった。次いで多いのが、集団感染、基礎疾患や持病を持つ人に感染させること、家族に感染させることへの不安である。これらは学生が学部を問わず言及された。ここまでの情報をあわせて考えると「海外／県外から移入したウイルスが、地元出身者を介して家族に感染することを懸念する人が多い」と整理できる。

学部ごとに特徴がみられる内容として、就職活動に関する言及が、法文学部、観光産業科学部、工学部、農学部で多かった。その一方で、実習関連の事項が多く挙げられたのが、教育実習を控える教育学部生、病院実習を控える医学部生である。このほか、アルバイトや寮生活に関する不安も挙げられた。自由回答の詳細な内容は表には示していないが大学等への提案としては、人が集まる契機となる履修登録確認手続きのデジタル化、教室への消毒液の設置など、多様な意見が集まった。それらについては「自由記述欄の回答を読む」を参照されたい。

表6 不安に感じている／困っていること：自由回答

自由回答に記述した人数		域外流入	集団感染	疾患関係	家族感染	就活関係	実習関連	アルバイト	寮生活
学生	人文社会学部	6	6	5	2			3	
	国際地域創造学部	7	3	5	5	1		2	
	法文学部	9	3	3	5	7	1	2	1
	観光産業科学部	1		1	1	5			
	教育学部	2	3	1	4		10	4	
	理学部	5	6	2	2			1	
	医学部			2			5		
	工学部	7	2	1	2	5		3	
	農学部	4	2	2	2	3			
	大学院生ほか	2		3	1	1	1	1	2
教員	人文社会学部	3	2		1		1	1	
	国際地域創造学部	1				1		1	
	そのほか						1		
職員	大学本部	3	1						
	そのほか	5							1
全体		55	28	25	25	23	19	18	4

出所) COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.1 (琉大政国)

職員の業務環境：Q3-3, 3-4, 3-5

最後に、職員に対してのみ質問した3つの項目を紹介したい。感染症対策として、自分と他人との距離を空けること、在宅勤務（テレワーク、リモートワーク）、書類に付着するウイルスを避けるための電子決済などが推奨されている。それらに対する意見を示したのが表7である。

全体でみると、もっと職員間の距離を空けてほしいという意見に比べて、在宅勤務や電子決済を推進することを求める意見が強い。特に電子決済は大学本部でも各部局でも8割以上の職員が支持している。ただ、大学本部では職員間の距離をもっと空け、在宅勤務をもっと推進してほしいという意見が多いのに対して、各部局ではいずれも3（中間）が多い。こうした違いの背景には、表5で示したように、大学本部では自分が感染することや自分が感染源となることに対する不安を抱える職員が多いことがあるとみられる。

表7 職員の業務環境に対する意見

各カテゴリに占める%	そう思う			そう思わない		合計 人	
	1	2	3	4	5		
もっと職員間の距離を	大学本部	27.3	45.5	9.1	9.1	9.1	11
	そのほか	23.5	5.9	35.3	17.6	17.6	17
	全体	24.1	20.7	24.1	13.8	13.8	29
もっと在宅勤務を	大学本部	45.5	36.4	9.1	9.1		11
	そのほか	41.2	11.8	41.2		5.9	17
	全体	41.4	20.7	27.6	3.4	3.4	29
もっと電子決済を	大学本部	81.8	9.1	9.1			11
	そのほか	76.5	5.9	17.6			17
	全体	75.9	6.9	13.8			29

出所) COVID-19に関する学内アンケート 報告レポート ver.1 (琉大政国)

附録) 調査フォームのレイアウト

1 ページ：共通

新型コロナウイルスに関する学内アンケート：締切4月2日(木)18:00 [琉球大学政策科学／国際関係論講座]

この調査の目的は「琉球大学の構成員（学生、教員、職員）が新型コロナウイルスに関する現状をどのように捉えているのか」を把握することです。調査結果は「新型コロナウイルスの感染拡大を抑止しながら、琉球大学の教育研究活動を維持する方策を検討する」ための基礎資料として、公表します。ただし、これは大学本部による意見聴取ではなく、あくまで教員による実態把握のための調査です。

アンケートでは「所属」「年代」「身分（学生／教員／職員）」をたずねますが、回答者の特定につながる個人情報（IPアドレス等も含め）収集しません。調査結果は個々の回答ではなく「年代」別など集計した結果を公表します。

調査主体は、人文社会学部国際法政学科・政策科学講座／国際関係論講座（主任：金成浩、阿部小涼、二宮元、萩原淳、山本章子、久保慶明：集計担当）です。公共政策に関する教育研究活動を実践する立場から、今回の調査が必要であると判断し、実施することにしました。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力いただけますと幸いです。

問い合わせ先：kuboy@eve.u-ryukyu.ac.jp（集計担当）

***必須**

上記をふまえ、この調査への協力に同意しますか？ *

同意する

同意しない

[次へ](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシー](#) [ポリシー](#)

Google フォーム

2 ページ：共通

新型コロナウイルスに関する学内アンケート：締切4月2日(木)18:00 [琉球大学政策科学／国際関係論講座]

***必須**

ご自身について

あなたの身分を教えてください。*

選択

あなたの年代を教えてください。*

選択

戻る 次へ

3 ページ：学生

学生のみなさんへの質問

回答送信は1回のみです。

Q1-1. 所属を教えてください。*

選択

Q1-2. 2020年度の授業は、いつから始めるのがよいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。なお、これは大学本部による意見聴取ではなく、教員による実態把握のための調査です。*

4月前半（現在の予定どおり）

4月後半

5月前半

5月後半以降

Q1-3. 授業を【4月前半（現在の予定どおり）】にはじめる場合、授業形態はどのようにしてほしいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。*

教室で、いままでどおりにおこなう

教室で、必要な対策をとっておこなう（窓の開放、席の間隔など）

遠隔授業で、できるだけおこなう（難しい場合は教室で）

遠隔授業で、すべておこなう（教室では絶対にやらない）

Q1-3. 授業を【4月前半（現在の予定どおり）】にはじめる場合、授業形態はどのようにしてほしいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。*

- 教室で、いままでどおりにおこなう
- 教室で、必要な対策をとっておこなう（窓の開放、席の間隔など）
- 遠隔授業で、できるだけおこなう（難しい場合は教室で）
- 遠隔授業で、すべておこなう（教室では絶対にやらない）

Q1-4. 仮に授業を【5月後半】にはじめる場合、授業形態はどのようにしてほしいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。*

- 教室で、いままでどおりにおこなう
- 教室で、必要な対策をとっておこなう（窓の開放、席の間隔など）
- 遠隔授業で、できるだけおこなう（難しい場合は教室で）
- 遠隔授業で、すべておこなう（教室では絶対にやらない）

Q1-5. 新型コロナウイルスについて、不安に感じていることはありますか？該当するものがあれば、すべて選んでください。*

- A. 自分が感染する／しているのではないか
- B. 自分が感染させる／させたのではないか
- C. 収入が減少して学費や生活費が支払えなくなるのではないか
- D. 遠隔授業の場合、授業についていけない不安
- E. 授業で教室を使用する場合、学生が距離を空けて座れる教室が足りなさそう
- F. 特にない
- その他:

Q1-6. [任意] そのほか、新型コロナウイルスについて、困っていることがあったり、困っている知人や友人がいる場合は、教えてください。また、感染対策として、大学／学部／研究科に求めたいこと、提案したいことがあれば、記入してください。

回答を入力

戻る

送信

4 ページ：教員

教員のみなさんへの質問

回答送信は1回のみです。

Q2-1. 所属を教えてください。*

- 人文社会学部
- 国際地域創造学部
- 教育学部
- 理学部
- 医学部
- 工学部
- 農学部
- 法務研究科
- その他:

Q2-2. 2020年度の授業は、いつから始めるのがよいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。なお、これは大学本部による意見聴取ではなく、教員による実態把握のための調査です。*

- 4月前半（現在の予定どおり）
- 4月後半
- 5月前半
- 5月後半以降

Q2-3. 授業を【4月前半（現在の予定どおり）】にはじめる場合、授業形態はどのようにしたいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。*

- 教室で、いままでどおりにおこなう
- 教室で、必要な対策をとっておこなう（窓の開放、席の間隔など）
- 遠隔授業で、できるだけおこなう（難しい場合は教室で）
- 遠隔授業で、すべておこなう（教室では絶対にやらない）
- 授業の担当予定はない

Q2-4. 仮に授業を【5月後半】にはじめる場合、授業形態はどのようにしたいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。*

- 教室で、いままでどおりにおこなう
- 教室で、必要な対策をとっておこなう（窓の開放、席の間隔など）
- 遠隔授業で、できるだけおこなう（難しい場合は教室で）
- 遠隔授業で、すべておこなう（教室では絶対にやらない）
- 授業の担当予定はない

Q2-5. 新型コロナウイルスについて、不安に感じていることはありますか？該当するものがあれば、すべて選んでください。*

- A. 自分が感染する／しているのではないか
- B. 自分が感染させる／させたのではないか
- C. 収入が減少して生活費が支払えなくなるのではないか
- D. 遠隔授業の実施を求められても、対応が難しい
- E. 授業で教室を使用する場合、学生が距離を空けて座れる教室が足りなさそう
- F. 特にない
- その他:

Q2-6. [任意] そのほか、新型コロナウイルスについて、困っていることがあったり、困っている知人や友人がいる場合は、教えてください。また、感染対策として、大学／学部／研究科に求めたいこと、提案したいことがあれば、記入してください。

回答を入力

戻る

送信

5 ページ：職員

職員のみなさんへの質問

回答送信は1回のみです。

Q3-1. 所属を教えてください。*

- 大学本部
- 人文社会学部／国際地域創造学部／法務研究科
- 教育学部
- 理学部
- 医学部／附属病院
- 工学部
- 農学部
- 附属図書館
- その他:

Q3-2. 2020年度の授業は、いつから始めるのがよいと思いますか？もっとも近いものを1つ選んでください。なお、これは大学本部による意見聴取ではなく、教員による実態把握のための調査です。*

- 4月前半（現在の予定どおり）
- 4月後半
- 5月前半
- 5月後半以降

Q3-3. [任意] 現在の職場において、デスクの配置など、職員間の距離をもっと空けたほうがよいと思いますか？

1 2 3 4 5
 そう思う ○ ○ ○ ○ ○ そう思わない

Q3-4. [任意] 現在の職場において、在宅勤務（テレワーク、リモートワーク）をもっと進めたほうがよいと思いますか？

1 2 3 4 5
 そう思う ○ ○ ○ ○ ○ そう思わない

Q3-5. [任意] 現在の職場において、電子決裁の導入をもっと進めたほうがよいと思いますか？

1 2 3 4 5
 そう思う ○ ○ ○ ○ ○ そう思わない

Q3-6. 新型コロナウイルスについて、不安に感じていることはありますか？該当するものがあれば、すべて選んでください。*

- A. 自分が感染する／しているのではないか
- B. 自分が感染させる／させたのではないか
- C. 収入が減少して生活費が支払えなくなるのではないか
- D. 学生が遠隔授業に参加するための設備が足りなそう
- E. 授業で教室を使用する場合、学生が距離を空けて座れる教室が足りなそう
- F. 在宅勤務（テレワーク、リモートワーク）を求められても対応が難しい
- 特にない
- その他:

Q3-7. [任意] そのほか、新型コロナウイルスについて、困っていることがあったり、困っている知人や友人がいる場合は、教えてください。また、感染対策として、大学／学部／研究科に求めたいこと、提案したいことがあれば、記入してください。

回答を入力

戻る

送信

修正箇所の記録

ver.1.1

- [1] 1 ページ誤字の修正：電子決済→電子決裁
- [2] 表1、表2、表5、表7の職員合計人数：大学本部 17 そのほか 11→大学本部 11 そのほか 17（ただし、個々の%には影響なし）

ver.2

- [1] データを追加。それに合わせて本文を加筆修正